

Title	目で見るWHO 第53号 表紙・目次・資料等
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見るWHO. 2013, 53, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86707
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University



目で見る WHO

- 特集「WHOへの人的貢献」

*Control your blood pressure,
control your life*

「血圧管理の重要性：心臓疾患・脳卒中のリスクを減らそう」

-

— 第53号 —

2013 冬号

発行 公益社団法人 日本WHO協会

日本WHO協会とは

公益社団法人日本WHO協会は、世界保健機関(WHO)憲章の精神を普及徹底し、その目的達成に協力し、我が国及び海外諸国の人々の健康増進に寄与することを目的として設立された団体です。設立より半世紀近く、関西を拠点にグローバルな視野から国内外の人々の健康を考え、行動しており、今後も積極的に目的達成のため活動していきます。

- (1) WHO憲章精神を普及するための健康に関するセミナー等の開催及び機関誌・広報等の啓発事業
- (2) 健康に関する調査研究の受託・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業
- (3) 国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業
- (4) WHOの事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業
- (5) 国内外の健康の向上につながる人材の育成・援助等の人材開発事業

C O N T E N T

ごあいさつ	1
沿革	2
●世界保健デー2013年のテーマ「高血圧」 高血圧の予防と管理：よりよい人生のために	岩嶋 義雄… 3
●WHO本部でのインターンシップ報告記 ～エビデンスを求めて～	土屋 良美… 6
●jaih-s との共同企画フォーラムⅢ jaih-s との共同企画フォーラムⅢ 開催報告	松園 梨代…10
「HIV/エイズとジェンダー」	垣本 和宏…12
●jaih-s との共同企画フォーラムⅢ【講義2】 「若年妊娠から考えるジェンダーと健康」	西原 三佳…15
●国際NGO団体 AMSAの紹介 AMSAとは ～Asian Medical Students' Association～ 提島丈雄、石井佐知子、金牧有希、大須賀菜月…	18
●日本WHO協会 第3回禁煙セミナー(2013・6・13 於 大阪歴史博物館) 「見える、確かめられるタバコの煙の歯と口の健康影響」	埴岡 隆…21
フォーラム開催のお知らせ	29

ごあいさつ



公益社団法人 日本WHO協会
理事長 関 淳一

去る10月16日に、日本の伊豆大島が台風26号の影響による土石流災害により大きな被害を受けました。その後、11月8日には台風30号がフィリピンのレイテ島に上陸し、これ迄に上陸した台風の中では史上最高の瞬間風速105mを記録し、4mを超える高潮と共に沿岸諸都市に甚大な被害をもたらしました。被害地域の様子は報道写真で見限り、東日本大震災を思い起こさせるものです。WHOも直ちに活動を開始し、初期から世界中の国々からの人的、物的救援が適切に進む様に調整の役割を果たしました。私は今夏の酷しい猛暑やこの度の台風による被害状況等を見るにつけ、地球上に起こっている何らかの気候の変動の一端ではないかと考えたりしました。同時に自然現象の予測の難しさと自然の力の大きさを改めて感じております。一日も早い、被災地の回復を心から祈念いたします。

WHOは例年より早く9月初めに2014年の世界保健デーのテーマを発表しました。来年のテーマは、Vector-borne diseases 昆虫等媒介疾患です。代表的な疾患としてマラリア、デング熱などが挙げられていますが、特にデング熱については近年の著しい患者数の増加について警鐘をならしています。

今年の世界保健デーにWHO神戸センター主催の公開講座において、今年のテーマである高血圧について講演され、アレックス・ロス所長より御紹介いただいた、国立循環器病研究センターの岩嶋義雄先生に御寄稿をお願い致しました。また、本年6月13日に大阪に於て開催した第3回禁煙セミナー

で御講演いただいた福岡歯科大学の埴岡隆教授の御講演内容を先生に改めて文章化していただき掲載させて頂きました。

当協会の人材育成事業の一環として、去る9月22日に日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)と共催で3回目のフォーラムを開催しました。テーマは「HIV/エイズ、ジェンダーから見る国際保健医療」でした。垣本和宏先生、西原三佳先生の御二人から極めて適切な、又示唆に富んだ御講演を頂き会場は終始熱気に溢れておりました。今回、その内容を掲載致しました。また、今年4月から8月迄、WHOのジュネーブ本部でインターンを経験されました長崎大学大学院の土屋良美様に「これからWHOインターンを目指す人へ」と題して御自身の御経験を御寄稿いただきました。

11月初めにAMSA(Asian Medical Students Association)日本支部の阪田武代表を含む役員の学生の方々4人が私共の協会を訪問され、AMSAの活動内容等について詳しく御説明頂きました。AMSAについては、私も断片的な知識しかありませんでしたが、この機会に是非AMSAの活動を少しでも多くの方々に知って頂くべきだと思い早速御寄稿をお願いいたしました。

今回、大変御多忙の中、本機関誌発行の為に御執筆、御協力いただきました皆様方に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

2013年11月

(公社) 日本 WHO 協会の沿革

- 1948 [「WHO憲章」が発効し、国連の専門機関として世界保健機関 (WHO) が発足する。]
- 1965 WHO憲章の精神普及を目的とする社団法人日本WHO協会の設立が認可された (本部 京都)。会報発行、WHO講演会等の事業活動を開始。
- 1966 世界保健デー記念大会開催事業を開始。
- 1970 青少年の保健衛生意識向上のため、作文コンクール事業を開始。
- 1981 老年問題に関する神戸国際シンポジウムを主催。
- 1985 WHO健康相談室を開設、中高年向け健康体操教室を開講。
- 1994 海外のWHO関連研究者への研究費助成事業を開始。
- 1998 京都にてWHO創設50周年シンポジウム「健やかで豊かな長寿社会を目指して」を開催。
- 2000 WHO健康フォーラム2000をはじめ、全国各地でもフォーラム事業を展開。
- 2006 事務局を京都より大阪市内へ移転。
- 2007 財団法人エイズ予防財団 (JFAP) のエイズ対策関連事業への助成を開始。
- 2008 事務局を大阪商工会議所内に移転。定期健康セミナー事業を開始。
- 2009 「目で見えるWHO」を復刊。パンデミックとなったインフルエンザに対応し、対策セミナーを開催。
- 2010 WHO神戸センターのクマレサン所長を招き、フォーラム「WHOと日本」を開催、WHOへの人的貢献の推進を提唱。
- 2011 メールマガジンの配信を開始。
- 2012 公益社団法人に移行。
世界禁煙デーにあたってWHO神戸センターのロス所長を招き、禁煙セミナーを開催。

第二次世界大戦の硝煙さめやらぬ1946年7月22日、世界61カ国がニューヨークに集い、すべての人々が最高の健康水準に達するためには何をすべきかを話し合い、その原則を取り決めた憲章が採択され、1948年4月7日国連の専門機関として世界保健機関 WHO が発足しました。

当協会は、この WHO 憲章の精神に賛同した人々により、1965年に民間の WHO 支援組織として設立され、グローバルな視野から人類の健康を考え、WHO 憲章精神の普及と人々の健康増進につながる諸活動を展開してまいりました。

歴代会長・理事長、副会長・副理事長 (在職期間)

会 長 ・ 理 事 長	中野種一郎(1965-73)	副 会 長 ・ 副 理 事 長	松下幸之助(1965-68)	加治 有恒(1996-98)
	平沢 興(1974-75)		野辺地慶三(1965-68)	坪井 栄孝(1996-03)
	奥田 東(1976-88)		尾村 偉久(1965-68)	堀田 進(1996-04)
	澤田 敏男(1989-92)		木村 廉(1965-73)	奥村 百代(1996-06)
	西島 安則(1993-06)		黒川 武雄(1965-73)	末舛 恵一(1996-04)
	忌部 実(2006-07)		武見 太郎(1965-81)	中野 進(1998-06)
	宇佐美 登(2007-09)		千 宗室(1965-02)	高月 清(2002-06)
	関 淳一(2010-)		清水 三郎(1974-95)	北村 李軒(2002-04)
			花岡 堅而(1982-83)	植松 治雄(2004-06)
			羽田 春免(1984-91)	下村 誠(2006-08)
			佐野 晴洋(1989-95)	市橋 誠(2007)
			河野 貞男(1989-95)	更家 悠介(2008-)
	村瀬 敏郎(1992-95)			